

クロカジキ 大西洋

Blue Marlin, *Makaira nigricans*



利用・用途

刺身、切り身（ステーキ）、ソテー

管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）

最近の動き

2011年にICCATによって実施された資源評価に基づき、ICCATでは、2013～2015年の各年のTACを2,000トンとし、スポーツフィッシングや沿岸漁業を含めた全ての漁業を対象とする新たな管理方策を2012年に策定した。2015年のICCATでは、2016～2018年の各年のTACを引き続き2,000トンとすることが合意された。

生物学的特性

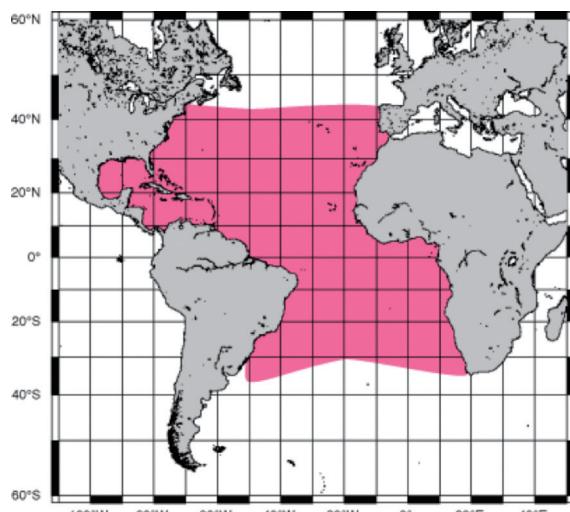
- 体長・体重：下顎叉長 2.8 m・200 kg（雄）、下顎叉長 3.8 m・500 kg（雌）
- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：2～4歳
- 産卵期・産卵場：夏～秋、熱帯・亜熱帯域
- 索餌期・索餌場：夏、温帯域
- 食性：魚類（特にサバ類）、頭足類
- 捕食者：調査中

漁業の特徴

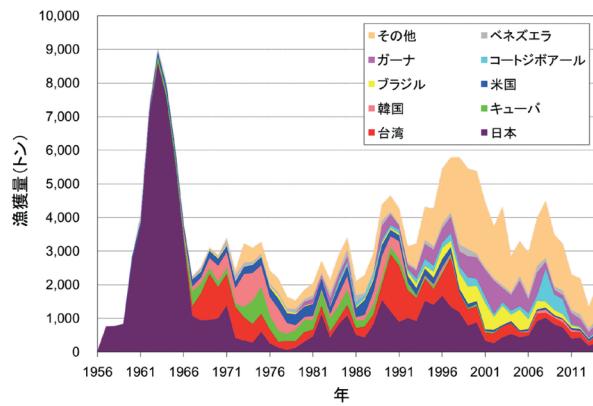
本種が主対象の漁業は米国、ベネズエラ、バハマ、ブラジル等のスポーツフィッシングとカリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸零細漁業である。近年の漁獲は、日本や台湾等のマグロ類を対象としたはえ縄漁業の混獲、及び、カリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸漁業によるものである。

漁獲の動向

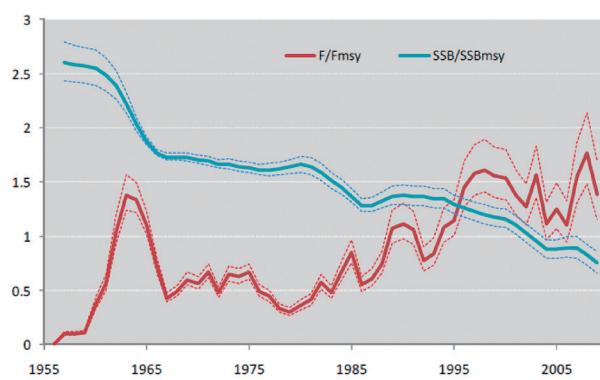
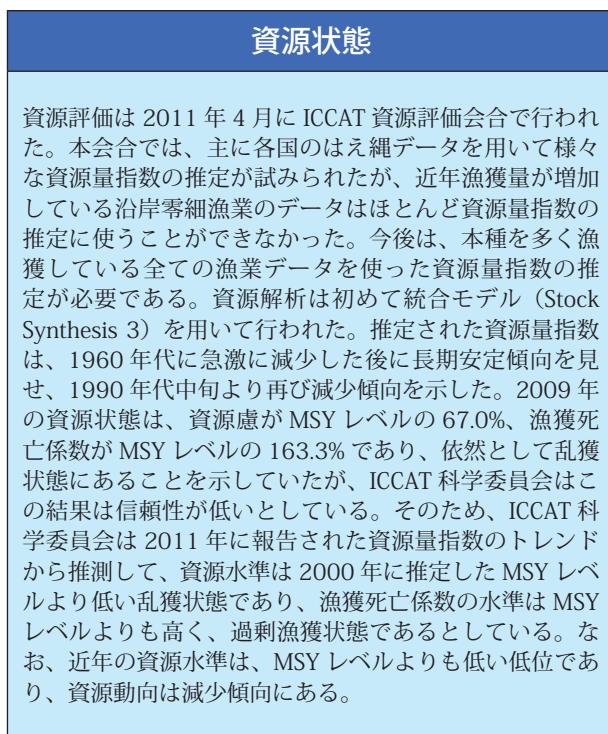
本種の漁獲量は1979～1998年に増加傾向を示し、1998年に5,791トンに達した後、2000年代中旬まで減少した。その後、再び増加から減少する傾向を示し、2013年には1,352トンまで減少した。2014年の総漁獲量は1,981トンであった。1990年代中旬～2000年代中旬には便宜置籍船によるはえ縄の漁獲等が増加した。また、沿岸零細漁業等が大きく漁獲をのぼし、1990年代下旬からはガーナ、コートジボアールといった沿岸零細漁業国がまとまる漁獲を揚げる等、近年は新しい漁業国による漁獲が増えている。日本の漁獲量は、2007年以降増加し2008年に1,000トンを上回ったが、その後減少しつつも2014年は281トンを記録し、漁獲量は国別で最多となっている。



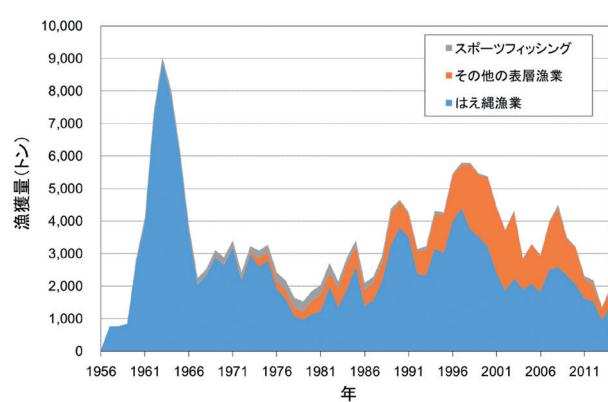
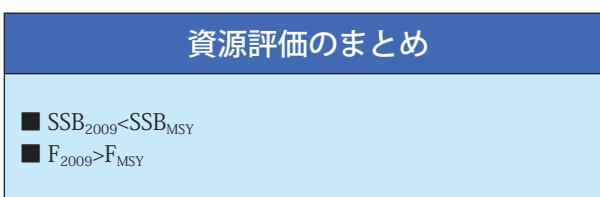
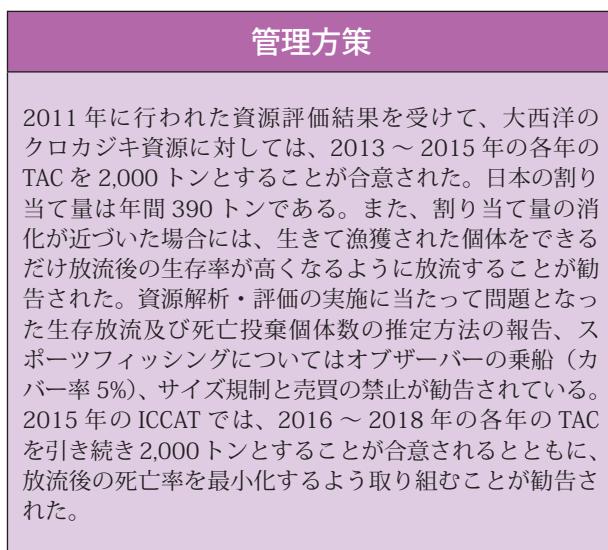
クロカジキ（大西洋）の分布



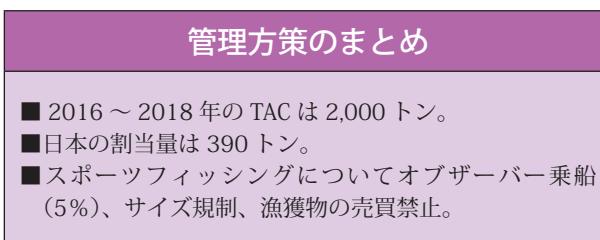
大西洋におけるクロカジキの国別漁獲量（データ：ICCAT 2015）
2014年は暫定値



Stock Synthesis 3 による資源解析結果 (ICCAT 2011)
青実線は産卵親魚量の MSY 水準比 (SSB/SSB_{MSY})、青破線はその土 10% 信頼限界を示し、赤実線は漁獲死亡係数の MSY 水準比 (F/F_{MSY})、赤破線はその土 10% 信頼限界を示している。



大西洋におけるクロカジキの漁法別の漁獲量 (データ : ICCAT 2015)
2014 年は暫定値



クロカジキ(大西洋)の資源の現況(要約表)	
資源水準	低 位
資源動向	減 少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	1,352～3,207 トン 平均 : 2,206 トン (2010～2014 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	189～731 トン 平均 : 407 トン (2010～2014 年)
最新の資源評価年	2011 年
次回の資源評価年	2017 年